

平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	経営者と共に学ぶ「商品開発のプロを目指して」女性の再チャレンジ支援プログラム		
法人名	学校法人 苫小牧学園		
学校名	苫小牧高等商業学校		
代表者	理事長 前 嶋 フ ク	担当者 連絡先	岩井勝則 TEL 0144-34-3135
<p>1. 事業の概要</p> <p>苫小牧市には近年、自動車関連産業等の企業が誘致される中、ダイエー、丸井今井など大手が苫小牧より撤退し、従業員の再就職先が確保されない状態が続き、益々雇用状況は厳しい状況下にある。各企業ではパソコンが導入され、経費削減の為に収益に直接数字があらわれる人員の削減は、企業にとっては手っ取り早い方策で収益改善方法である。こういった企業の経営状況を考えると、リストラ等で職を失わない為に又雇用競争を勝ち抜いていくためにはIT能力や技術の習得は最低必要能力と考えられる。この様な状況から人材教育と企業との協力した人材教育が必要である。マーケティング知識の他、商品開発知識や販売能力などからパソコンの応用能力が求められ求人条件を満たす人材教育を事業の目的とする。</p> <p>支援事業のねらいは、子育て等が一段落して働きたいが何から始めたらよいかわからない。再就職の情報収集や学習、求職活動等が困難。企業ニーズとのミスマッチにより再就職が困難。働き続けるのが難しい(パソコン能力不足など)。再就職を目指す子育て中の女性が求職活動ができる為の、再チャレンジに必要な支援等の充実。専修学校における再チャレンジのための学習機会の提供等支援を行う。商業科の簿記・パソコンは如何なる業種であろうと基本となり、パソコンは広告やチラシ、POP等の作成、会議等の資料作りに活用できるソフト活用能力及び企業が求める人材の育成の為のマーケティング論を事業内容として、現在の働く女性、働きたい女性がチャレンジしやすい時間帯、曜日(土日祭日はできる限り家庭に)の設定とした。受講生は、20代2名、30代5名、40代10名、50代4名 合計21名(定員20人)。子育て中の参加者が参加しやすいように、有資格者(保育士、幼稚園教諭、養護教諭を配置)による託児室を設けて対応した。期間中も出来る限り託児中テレビだけに頼ってしまいがちになりやすい状況を回避するためにも現役の有資格者を配置し、利用する子どもたちのコミュニケーションに配慮し、お絵描き、粘土、塗り絵、折り紙、DVD、ゲーム、多目的ホールの活用と多彩な内容を実施する。保護者は安心して参加できた。簿記検定の検定受講生に合わせた講座の取り組みと試験対策対応を実施(過去問題、講師による補習対応を実施)。安心して受講できる環境を整備した。講座内容も、在り来たりの講座ではなく、地元ではなかなか受けられない内容を工夫、日商簿記3級、パソコン実習に会計ソフトの活用、POP・チラシ作り、会議資料作成にパワーポイントソフトの活用、実践的なビジネス・マナー、地元企業経営者の商品開発への情熱と理念、必要な人材確保(具体的にどの様な人材が求められているのか)を事業内容とした。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>簿記(日商簿記3級程度)、パソコン実習(弥生会計ソフト入力処理、POP・チラシ作成、パワーポイントの活用)、ビジネスマナー、マーケティング論の105時間を実施し、全予定内容及び予定時間を完了した。 (社)全国経理教育協会主催 簿記検定3級5人受検5人合格</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>事業の目的としていた講座時間帯(18時、19時開始)に付いて受講生からは参加しやすいと好評だった。又、託児室の用意についても、子育て中の参加者が参加しやすいように、有資格者(保育士、幼稚園教諭、養護教諭を配置)による託児室を設けて対応し、期間中も出来る限り託児中のマンネリ化の取組、お絵描き、粘土、塗り絵、折り紙、DVD、ゲーム、多目的ホールの活用と多彩な内容を実施し、保護者は安心して参加できた。安心して子ども連れて参加でき好ましいとの結果でした。託児室の利用状況についても講座日数40日間(利用無し2日(連絡無い場合は遅れてくることもあるので保育士配置している)) 利用児童3家族4人が利用された。講座内容について、学校を卒業してからは学習する機会がなく、パソコン学習でも少し詳しく知りたい等の部分が、外部講座であると、学習時間や受講費が高額で学習が難しい事が今回の講座にて学習出来たことは大変成果があがったと評価できる。マーケティング論講座では、地元の経営者と直にディスカッションする場が設けられて、今まで消費者だけの立場で見ている事が、如何に地産地商の観点から、食の安全、環境への影響を考えて消費者へ提供するための努力をしていることを受講生は再認識と地元企業の再評価を新たにできたことは評価ができた。</p> <p>③今後の活用</p> <p>今回の事業内容を踏まえ、受講生のアンケート調査からも事業内容について、一つのテーマに十分な時間の取組がほしいとの要望があり、各企業の社員教育性が濃い講座。これは既存の社員教育ばかりではなく、これから求人に対する応募者の教育がされている事が望まれている。働くという事への意識改革等の観点からも検討が望まれる。正社員とパートタイマーの仕事への意識の違いがある、その部分を取り組む講座があっても良いと思う。就職へ結びつくような事業展開となればと考える。</p>			

④次年度以降における課題・展開

事業を展開するうえで、同一講座における実力の差が学習を進めるうえでの障害となり、事業内容のつながりを工夫する必要があった。

一つの講座を進めるうえで、十分な時間の確保及び受講生に対する、講座内容の復習時間を設ける余裕がなかった。簿記講座やビジネスマナーでは、テストや実習での確認する時間の余裕がなかった。マーケティング論においては、全講師が一堂に集まり打ち合わせができなかったことは、個々の打ち合わせだけでは、内容が重複してしまうこともあり、テーマのポイントを明確にする事が必要であり、次回以降への課題点となった。受講生の実際には学力差があり(パソコン操作など)、講座内容の組立に苦慮した。

3. 事業の実施に関する項目

簿記講座は、経営面から如何に数字を見る上で必要不可欠であるかが理解された講座であったと考える。当事業の簿記講座受講により、5名の受講生が全経3級簿記を受検し合格した。パソコン実習については、展開の早いPOP・チラシ作成、パワーポイント活用といった講座では、作成経験者がいないため取組方、特に受講生の熱心さがうかがえた。弥生会計ソフト入力処理講座は、検定と時期がずれていた為、受講生の実力を試す機会がなかったが、税理士が実践に於いての弥生会計ソフトの活用の便利さや、実際の帳簿における面での注意点などが受講生にとって好評だった。マーケティング論では、地域の経営者の経営理念と従業員との考え方の相異や顧客重視並びに食の安全と地産地商「商品開発」の情熱を実感し、普段疑問に思っていたことなどから入りやすいデスカッションに各経営者が考慮され受講生には取り組みやすい内容となった。

(テーマ、期間、受講者の属性・受講者数、場所、受講者の反応)

経営者と共に学ぶ「商品開発のプロを目指して」

平成19年9月3日～平成19年11月27日

20代2名、30代5名、40代10名、50代4名 合計21名(定員20人)

会場 苫小牧高等商業学校(演習室、PC教室、家庭科室、多目的ホール)

受講生は、20代2人、30代4人、40代10人、50代4人

講座別出席率 講話(100%)、簿記(95%)、マーケティング論(78.1%)、弥生会計ソフト入力処理(85.7%)、ビジネスマナー(70%)、POP・チラシ・パワーポイントの活用(84%)

出席率 100%4人、90%6人、80%6人、70%2人、50%以下2人

(事業の特色、事業実施にあたり工夫した点等)

一般社会人講座程度の内容の先の学習講座を目的とし、実社会でパソコンは活用しているが、学校で学習する中級程度の内容を取り入れ、独学ではなかなか理解が難しい事業内容とし、学習環境を整備提供することによって、能力の向上を図ることが出来る講座の提供を目的とした。その為に講座の開始時間を18時、19時と設定し、日商簿記初級(30時間)を復習内容として、次にパソコンによる会計ソフト活用(弥生会計ソフト30時間)。パソコンの応用として、POP・チラシの作成(6時間)、会議用資料作成等にパワーポイント等(9時間)、ビジネスマナー(3時間)、企業経営者の地産地消、食の安全、環境への配慮などの思いと職場の人材への期待についてマーケティング論等(27時間)とした。子育て中や仕事を持つ女性が、普段できない家庭の用事を休日に行うことなどを考慮し、土日祭日には講座を設定せず、有資格者配置による託児室を設けた。受講生には企業が求める人材とはを一貫した事業内容を提供するために、地元企業経営者に講師を依頼し、求められる企業と人材をテーマとした。

受講者20人中(就職されている方13人(フルタイム10人・パート3人でその内、就職・転職希望者6人)、無職4人(この内就職希望者2人)、職業の有無不明者3人(就職希望者1人))。

就職希望相談参加者9人の現在の状況(本人の状況内訳 50代 0人、40代 6人(転職希望2人(正規雇用1人、嘱託雇用1人)、業務縮小人員整理対象者1人、求職活動中3人(パート1人、無職2人))、30代2人(求職活動2人(人材派遣1人、職業の有無不明1人))、20代 1人(アルバイト雇用))

事業予定期間12月末日迄に求人説明会参加企業募集について、11月28日の平成19年度第6回北海道中小企業家同友会苫小牧支部幹事会において事務局長から支援事業講座が修了したことを報告し求人について理解を求め、新年度に向けての求人活動においても、支援講座参加者の求職を優先的に理解のうえ参加をお願いした。理解を示した企業から説明会の予定について連絡があり、同友会苫小牧支部事務局長と苫小牧高等商業学校事務局長が企業と参加希望者へ連絡を図り、説明会の日時の調整を図り開催に至る。

(企業説明会の実施内容)

会場:苫小牧高等商業学校 多目的ホール

日時:平成19年12月17日 18時より19時30分まで

当日参加企業:1社(北海道中小企業家同友会苫小牧支部会員)

参加者:参加者数5人(正規雇用転職希望者1人、業務縮小人員整理対象者1人、パート1人、アルバイト雇用1人、無職求職中1人)(就職希望者9人中不参加者は4人)

参加企業の事業内容～牧場経営、食品加工販売等。

募集職種:経理事務、営業事務等

求人への応募者数:1人(応募者40歳代、業務縮小による人員整理対象者。12月22日面接、採用については12月末日現在未定～北海道中小企業家同友会苫小牧支部より雇用支援の理解を求め採用を求めている。企業の経営者より沿革・事業内容を資料をもとに説明、募集職種について説明され、経営者と参加者間にて質疑応答。)

その他

専修学校経理・一般事務募集1名 募集案内中。

40歳代(無職で求職中)1人講座期間中に大手化粧品会社販売店事務に採用される。